

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530133

研究課題名（和文） チャールズ・A・ビアードと日米関係に関する研究

研究課題名（英文） Charles A. Beard and Japanese-American Relations

## 研究代表者

中嶋 啓雄（NAKAJIMAHIROO）

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：30294169

研究成果の概要（和文）：4年の研究期間でそれぞれ1週間程度、二度、アメリカ合衆国へ調査に出かけた。また二度、海外の学会に出席して、そのうち1回は研究成果の一部の発表も行った。国内でもほぼ毎年、東京で史料収集を行うと同時に関連の学会にも毎年、出席し、最新の研究動向の把握に努めた。期間中、代表的な研究成果として雑誌論文1本、共著1冊があり、また海外での学会発表を土台に英文論文を1本執筆し、現在、学会誌に投稿中である。

研究成果の概要（英文）： During 4 years of research period, I made two research trips to the United States each for about a week. Also I attended two overseas academic conferences and read a paper, a result of this project, at one of them. Domestically, I also collected primary sources in Tokyo almost every year and attended related academic conferences every year in order to grasp the state of the field. As representative results of this project, I published an article in a professional journal and a chapter in a book and wrote an English article based upon the paper I read at an overseas conference, which is presently under review by the journal of an academic organization.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：外交史・国際関係史

## 1. 研究開始当初の背景

従来、一八二三年に宣言されたアメリカ外交の基盤とも言うべきモンロー・ドクトリン（モンロー主義）の研究を行ってきた。20世紀前半のアメリカを代表する知識人であった政治学者・歴史家チャールズ・A・ビアードは、20世紀前半にそのモンロー・ドクトリン、すなわち孤立主義的なアメリカ外交を擁護したが、その一方で日本に半年余り滞在して、知米派知識人と交友を深めていったことに興味を持ち、新たに本研究課題に取り組むことになった。

## 2. 研究の目的

本研究はチャールズ・A・ビアードと政治家・後藤新平やその周辺にいた日本の知米派知識人との交流を、広く日米関係史の文脈に位置づけようとするものである。より具体的には、ビアードと後藤やその娘婿・鶴見祐輔、高木八尺、松本重治ら知米派知識人との間の1920年代から戦争を挟んで戦後にかけての親交を実証的に検討して、それが日米関係、特にその文化的側面にどのような影響を与えたのかを明らかにすることを目的としている。

## 3. 研究の方法

アメリカ合衆国各地において精力的に史料収集を行う（ウィスコンシン州歴史協会所蔵ムール・カーティ文書、ワイオミング大学アメリカン・ヘリテージ・センター所蔵ハリー・エルマー・バーズ文書、ジョージ・モーゲンスターン文書）と共に、海外の学会に

も積極的に参加して研究の最前線を知る。そして、研究成果を学会誌等に掲載される研究論文や学術書の一部（共著）として刊行し、また海外の学会で研究発表を行い英文論文も執筆して、いわば知的国際貢献に努める。国内でも東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター図書室（高木八尺文庫）、東京市政調査会市政図書館等で史料収集を行い、日本国際政治学会、アメリカ学会といった関連の学会に出席して、研究動向を把握する。

もちろん関連の研究書・論文も収集して、1次史料と併せ考察を深めていく。

## 4. 研究成果

初年度は実証研究の形式を取りつつ、研究課題を方向付ける枠組みを提示した学術論文を専門の学会誌に掲載した。また、シアトルで開催されたアメリカ史学会（Organization of American Historians）に出席して、アメリカにおける研究動向の把握に努めた。

2年目にはアデレードで開催されたオーストラリア・ニュージーランド・アメリカ学会（Australia and New Zealand American Studies Association）に出席して、研究成果の一部を発表した。小規模な学会ではあるが、トランスナショナル・ヒストリーとしてのアメリカ史研究を推進するイアン・ティレル教授（ニューサウスウェールズ大学）を代表される世界的に著名な研究者も出席しており、オーストラリア、ニュージーランドで活躍するアメリカ研究者を前に報告を行い、またそ

の報告に対してティレル教授などから直接コメントを得たのも、その後の研究を進める上で非常に有益であった。

3年目には、それまでの史料収集の試みの結果、前述の高木八尺文庫の未整理の史料のなかから発掘した世界のビアード研究者にもまったくその存在が知られていない新史料（ビアード夫妻と高木との間の往復書簡等）を踏まえて、ビアードと日米関係に関してより実証的な研究論文「知的交流に見る戦前・戦後初期日米関係の断絶と継続」を執筆して、4年目に学術書の中の一つの章として発表した。

その他、教科書的な色合いがあるものも含め、研究課題に関わるアメリカ外交史について二、三の学術書を刊行して、また海外での学会発表を土台にその後、さらに収集した史料を用いて英文論文“Beyond War: The Relationship between Takagi Yasaka and Charles and Mary Beard”を執筆し、現在、学会誌に投稿中である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①中嶋啓雄、歴史的視座から見たアメリカの安全保障文化——ユダヤ=キリスト教的伝統・共和主義・自由主義、国際政治、査読無（招待論文）、167号（2012）、14-26

②中嶋啓雄、アメリカ大統領制における対外政策の原型——ジョージ・ワシントンから

ジョン・クインジー・アダムズに至る歴代政権、アメリカ研究、査読無（招待論文）、43号（2009）、23-42

③中嶋啓雄、チャールズ・A・ビアードと日米関係——国際主義と孤立主義、EX ORIENTE（大阪大学言語社会学会誌）、査読無（招待論文）、15巻（2008）、119-135

〔学会発表〕（計2件）

①中嶋啓雄、Charles A. Beard as Cultural Internationalist: The Case of Japanese-American Relations、Australia and New Zealand American Studies Association、2010.7.3、アデレード大学（オーストラリア）

②中嶋啓雄、ローズヴェルト系論とカリブ地域における軍事介入、日本国際政治学会・2008年研究大会・アメリカ政治外交分科会、2008.10.25、つくば国際会議場

〔図書〕（計3件）

①中嶋啓雄、ミネルヴァ書房、日米同盟論——歴史・機能・周辺諸国の視点、（2011）、19-43

②中嶋啓雄、ミネルヴァ書房、ハンドブックアメリカ外交史、（2011）、1-30、34-37、42-43、48-49、52-55、66-67、80-81、116-117、156-157、200-201

③中嶋啓雄、法政大学出版局、アメリカの戦争と世界秩序、（2008）、101-126

[その他]

ホームページ等

<http://researchmap.jp/h.nakajima>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中嶋 啓雄 (NAKAJIMA HIROO)

大阪大学・国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：30294169